



誠・力・光

令和4年11月9日
練馬区立北町中学校
学校だより 11月号

基礎をしっかり耕し育てていく

校長 中嶋 雅彦

体育館へ通じる渡り廊下を歩いていると、3人の主事さんが、花壇を耕していました。来年度4月の新入生や進級する生徒を迎えるための作業です。また、その日の朝には、生徒が登校する前に校庭の落ち葉を集め、学校生活に支障がないようにと気づかってくれる姿に出会っていました。植物が成長する過程に伴う人間との快い共生には、計画的な準備と日々の地道な対応が必要である古都を再認識させられました。赤、白、黄色、さまざまな色のチューリップの球根が、人の手によって育てられ、本校の子どもたちの心を育ててくれることを願っています。

さて、11月7日には、北町中で、「東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ」ともなう、授業研究が行われました。この研修は、教諭等としての在職機関が10年に達した教員に対し、東京都教員人材育成基本方針を踏まえ、中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる学習指導、生活指導・進路指導等に対する指導力の向上、教育公務員としての資質向上等のため、教育公務員特例法第24条の規定に基づき実施されています。本校には、この研修を受講している教員が5人おり、練馬区の小、中学校でその対象となっている教員とともに授業研究を行いました。

1年1、3組の英語、1年2組の国語、2年1組の社会、3年1組の理科、3年3組の社会、これらの教室では、それぞれ5人ほどの先生方が授業を参観する中、生徒たちは、意見を交換し、互いの考えを深め、その発表を行っていました。私には、子どもたちが先生を応援しより質の高い研修になるよう協力してくれているように思わせるほど、授業に集中していたように感じました。その後の協議会では、それぞれ授業を参観したグループに分かれ、その研修を深め、これからの授業力向上につなげていました。

教員は、10年ほどの経験を積むと、学校運営上の重要な役割を担い、同僚や若手教員の指導的な立場となります。子どもたちを日々育てていくことと同時に、学校そのものの機能を高め、お互いの資質向上も行っています。本校の学校理念である「多くの可能性を秘めた生徒を、教師が互いに教師力を向上させることにより、その良さを伸ばし、自ら社会の変化に対応していく力を身に付けさせるべく教育活動に邁進する。」を目指し、将来に、色とりどりの花が咲かせる生徒そして教師の育成を図っていく決意です。

ミキのお二人が来校

文化祭

百花繚乱 ～想いを繋ぐ文化の華～

3年ぶりに全校生徒が集まったので開催ができました。しかし、舞台発表は感染対策として制限をさせていただきながらとなりました。

今年度は、東京都教育委員会主催による『子供を笑顔にするプロジェクト』に応募し、計画をしました。新型コロナウイルスにより、楽しみにしていた学校行事が中止・縮小になり、友達との関わりなど、学校生活のいたるところで、生徒たちは我慢を強いられてきました。このプロジェクトは、生徒たちが笑顔を取り戻すきっかけとなるようにという目的で事業化されたものです。

やるからには、思いきり驚かせ、楽しい思い出になるようにと願いを込めて、当日までシークレットを厳守しました。

芸人のミキのお二人を迎え、最初は驚きでしたがあっという間の30分間でした。

